

方剂名 書籍	効能	生薬組成 主治および証 病機 方意
<p>温裏剤 回陽救逆剤 7</p>		
<p>こくしゃくたん 黒錫丹</p>	<p>温壯腎陽・鎮納浮陽</p>	<p>黒錫・硫黄各 60g・沈香・木香・小茴香・陽起石・胡芦巴・補骨脂・肉豆蔻・川楝子・附子各 30g・肉桂 15g 成薬の丸剤 5g を塩湯で服用する。小児は 2~3g、救急には 9g を用いる。</p>
<p>和剂局方</p>	<p><主治> 腎陽虚、不納気 吸気性の呼吸困難、呼吸促迫、喘鳴、四肢の冷え、冷汗が止まらない、舌質が淡、舌苔が白、脈が沈微など。 陽虚陰盛 元気がない、寒がる、四肢の冷え、舌質が淡、舌苔が白滑、脈が沈遅などを呈し、奔豚気（下腹部から塊状のものが胸部にこみ上げる）、胸腹部が脹る、下腹痛、腹鳴、下痢、陽萎（インポテンツ）、滑精、月経不順、不妊、うすい帯下などの症状が現われる。</p> <p><病機> いずれも腎陽虚、陰寒内盛による病変であり、元気がない、寒がる、四肢の冷え、舌質が淡、舌苔が白滑、脈が沈微など陽虚の症候がみられる。 腎陽虚、不納気の場合 腎陽が虚して納気ができないために吸気性の呼吸困難が生じ、無根の火が上浮するので呼吸が促迫する。水気不化による痰が胸中に壅滞すると、喘鳴を伴い呼吸困難がより明らかになる。固摂が低下するために冷汗が止まらない。腎不納気は、痰壅胸中の上盛と腎陽虚の下虚が同時に存在する「上盛下虚」であり、上盛は標で下虚が本である。 陽虚陰盛の場合 下焦の水寒が無根の浮陽と共に上凌した場合は、下腹部から塊状のものが上部につき上げる「奔豚気」が生じ、胸腹部が脹って苦しい、陰寒内盛で肝脈に影響が及ぶと寒疝が現われ、下腹痛、腹鳴、下痢など疏泄失調の症状がみられる。腎陽虚で下元を温煦できないので、男性では陽萎（インポテンツ）、滑精が、女性では血海虚寒の月経不順、不妊、帯下清稀が現われる。</p> <p><方意> 腎陽を温壯して固本し、浮陽を鎮摂し平衡降逆して治標する。 甘寒で質重の黒錫は重鎮であり、逆気を下降し浮陽を鎮摂して、痰壅の上気喘促を平定する。酸、大熱の硫黄は、腎陽を温補して沈寒を消散する。両薬の配合により、陰中喪求陽し水火併補、標本兼顧することができ、本方（黒錫丹）の主薬である。辛甘、温熱の附子・肉桂・補骨脂・胡芦巴・陽起石は、温腎壯陽、散寒に働いて浮陽を摂納する。小茴香・木香・肉豆蔻は温中調気、降逆除痰すると共に温腎にも働く。沈香は平衡降逆して納気を強め、黒錫を補佐する。苦寒の川楝子は反佐で、他薬の温燥を抑制すると同時に和気疏肝する。全体で腎陽を温補して納気帰腎させ、喘逆、厥冷を止める。</p> <p><参考> 黒錫丹は重墜、温燥であるから、下焦陰虚や妊婦には禁忌である。 一般に 2~3 回の服用に止める。久服、多服すると中毒の危険がある。</p>	